

試験場の研究部紹介

野菜花き試験場 育種部

野菜花き試験場育種部では、病気に強く気象変動や異常気象に対応できる品種や、高品質で機能性成分に富んだ野菜の品種開発を進めています。ここでは、特に重点的に取り組んでいる品目を最近の成果を含め紹介します。

レタス根腐病に強い晩抽性のレタスの育成

全国一の生産を誇る本県のレタス産地では、重要病害のレタス根腐病に強い耐病性品種が求められています。また、7～8月の盛夏期に収穫する作型では、高温による茎の伸長（抽だい）や結球部がいびつな形状となる異常球、梅雨期～梅雨明け後の不安定な気象条件下でレタスの葉の縁が褐変する生理障害（チップバーン）の発生が増加しており問題になっています。

近年育成したレタス「シナノリード」（長・野50号）は、盛夏期に収穫する主産地で広く栽培されているサリナス系の品種です。本県で発生しているレタス根腐病のレース1とレース2の両方に耐病性を有しています。また、抽だいが遅く、チップバーンの発生が少なく、結球形状が安定しており、特に球底部の形状が優れる特徴があります。本品種は標高1,000m以上の産地で7～8月中旬に収穫する作型に適しています。



「シナノリード」(長・野50号)

今後も本県のレタスの品質向上と生産安定につながる品種育成に取り組めます。

収量性に優れ食味が良いセルリー「長・野52号」の育成

本県は全国一のセルリー産地でもあり、夏季の冷涼な気候を生かして品質の高いセルリーを生産してきましたが、以前からセルリー萎黄病の発生による生育不良が問題となっています。

セルリー萎黄病は、フザリウム属の糸状菌によって引き起こされる土壌伝染性病害です。セルリーに近縁のセルリアック（根セルリー）にはセルリー萎黄病抵抗性があり、海外ではセルリアックとセルリーを交配した萎黄病抵抗性のセルリー品種が作出されています。



「長・野52号」

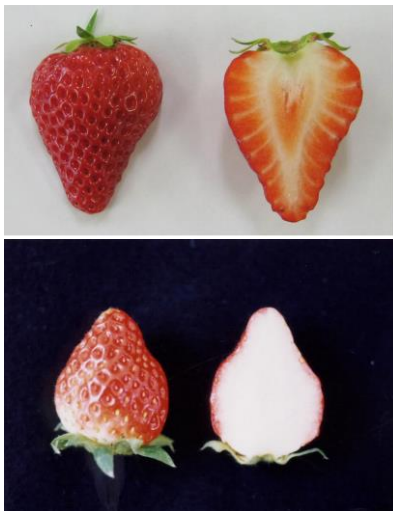
一般市販品種

当部ではこれまで、既存品種と萎

黄病抵抗性品種を交配することにより、収量性に優れ食味がよい県内での栽培に適したセルリー系統「長・野52号」を育成しました。また近年、盛夏期の高温によって葉が黄化する品質低下も課題となっており、セルリアックをはじめこれまでと異なる萎黄病耐病性を導入しながら、より耐病性・耐暑性・収量性・品質に優れた新たな品種の育成を目指しています。

果実品質に優れ多収で、うどんこ病に強い夏秋どりいちごの育成

本県では、ケーキのデコレーション等に用いる業務用いちごの夏秋どり栽培が増えています。夏秋どりには四季成り性品種が用いられ、果実特性や食味が優れ多収な県オリジナル品種の「サマープリンセス」が普及してきました。しかし、うどんこ病、着色異常果、芯止まり症状などの発生で、盛夏期以降の収量の落ち込みが大きいことが課題となっています。これらの課題を解決するため、四季成り性いちご「サマーリリカル(長・野53号)」を育成しました。



果肉が赤い「サマーリリカル」(上段)
(下段「サマープリンセス」)

「サマーリリカル」の着果の様子

本品種は「サマープリンセス」よりうどんこ病に強く、着色異常果や芯止まり症状が発生しにくい特性があります。また、盛夏期後の株疲れによる収量の落ち込みが少なく、商品果率も高く多収な品種です。果実は「サマープリンセス」よりやや硬く、香りはやや強く、甘みと酸味のバランスの良さも特徴です。

「サマーリリカル」は「サマープリンセス」が栽培しにくい地帯(標高 650~850m)でも安定した生育を示すので、本県の夏秋どり栽培の拡大につながることを期待されます。

圃場貯蔵性に優れロス果の発生が少ない高品質・多収なジュース用トマトの品種育成

生食用トマトは、民間の種苗会社で数多くの新しい品種が育成されています。一方、ジュース用トマトは、主にトマトジュースメーカーが自社の契約栽培向けに専用品種を育成しています。県内には独自品種を持たないジュースメーカーが数社あ

り、当部では、これらのメーカーと契約している生産者向けにジュース用トマト品種の育成を行っています。近年、当场育成の「らくゆたか」や「なつのしゅん」などの品種が主に現場で利用されており、これらに代わる品種育成を目指しています。

現在、夏季の高温でも果実が日焼けしにくい特性、ほ場貯蔵性に優れる特性(完熟した後もほ場で腐敗しにくい)、リーフカバー(果実を葉で覆う)に優れる特性、結実を安定させるための植物生育調整剤処理が不要な単為結果性、株が自然に広がり株分け作業の不要な開性草姿などの特性を持つ系統を素材に、県オリジナル品種の育成を進めています。



リーフカバーが優れる系統



試験ほ場での系統選抜の様子

春どり収量の多い高品質な紫アスパラガスの育成

全国2位のアスパラガス生産を誇る本県では、収量が多く高品質なアスパラガスの品種育成が求められています。これまで当部では緑色品種を2品種育成し、さらに平成29年(2017年)に紫色品種「しなの紫萌^{しほほう}(長・野交51号)」の育成が完了しました。

一般的に紫アスパラガスは、太ものが多く、軟らかく、食味良好ですが、緑色品種と比較して収量性に劣るという欠点があります。育成した「しなの紫萌」は、単価の高い春どりの収量が多い品種です。本品種は、年間収量において県内慣行の緑色品種「ウェルカム」には及ばないものの慣行紫色品種「パープルパッション」より多く、春期の収量に限れば「ウェルカム」よりも優れています。また、食味良好なうえ、若茎が50cm程度に伸長しても穂先が開きにくく、曲がりや紫色のぼらつきが少ない等、品質も優れています。



「しなの紫萌^{しほほう}」の萌芽

| | | | |
|-----|-------|------|--------------|
| 担当者 | 岩波 靖彦 | 電話番号 | 0263-52-1148 |
|-----|-------|------|--------------|